

Citation: Ziino AJA, Davies MW, Davis PG. Epinephrine for the resuscitation of apparently stillborn or extremely bradycardic newborn infants. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2002, Issue 3. Art. No.: CD003849. DOI: 10.1002/14651858.CD003849.

CRG名: Cochrane Neonatal Group

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 6 December 2010

Clib issue No.; N/U: 2011 Issue 2 ; Update

背景: エピネフリンは心臓および血管に対し複雑な効果を持つ強心薬で、心停止および徐脈を治療するため数十年間すべての年齢層で使用されている。新生児蘇生でのエピネフリン使用の正式なガイドラインにもかかわらず、これらの推奨に対するエビデンスは、まだ厳密に精査されていない。このエビデンスは、大部分が動物モデルおよびヒト成人集団から得られたものであることは理解されているが、新生児集団への使用による寄与は依然として不明である。特に、仮死出産または極度徐脈という状況で、死亡率および罹病率へのエピネフリン投与の影響を確立することに対し、新生児を対象にしたランダム化研究が有用か、決定されていない。

目的: 仮死出産児および極度徐脈新生児へのエピネフリン投与による死亡率および罹病率に対する効果を検討すること。

副次目的は、エピネフリンの気管内投与に対する静脈内投与、標準量に対する高用量投与において、死亡率および罹病率に対する効果の解析を含む。

検索戦略: 1966年から2007年8月までのMedline、CINAHL(1982年～)、Current Contents(1988年～)、EMBASEおよびCochrane Central Register of Controlled Trials(CENTRAL、コクラン・ライブラリ 2007年、Issue 2)を検索した。学会抄録の著者目録をレビューし、1993年から2007年までのSociety for Pediatric ResearchおよびEuropean Society for Pediatric Researchの学会抄録をハンドサーチして未発表の研究を検索した。本検索は2010年11月に更新された。

選択基準: 予期しない仮死出産または極度の徐脈のためエピネフリン投与を受けた早期産および正期産の新生児を対象にしたランダム化および準ランダム化比較試験。

データ収集と分析: 本レビューの選択基準を満たした研究は認められなかった。

主な結果: 本レビューの選択基準を満たした研究は認められなかった。

レビューアの結論: 仮死出産または極度の徐脈の新生児へのエピネフリン投与を評価したランダム化比較試験は認められなかった。同様に、エピネフリンの至適用量および投与経路の問題に取り組んだランダム化比較試験は認められなかった。新生児でのエピネフリン使用に関する現在の推奨は動物モデルおよびヒト成人対象の文献から得られたエビデンスにのみ基づいている。新生児でのエピネフリンの役割を決定するため、この集団でのランダム化試験が早急に必要である。

(監訳 江藤 宏美)
翻訳公開日: 2011年10月4日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改訂版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。